

討論への問題提起： オープンサイエンスの知識論を考える

TAKING THE SCIENTIFIC KNOWLEDGE SERIOUSLY:
A CONSIDERATION IN THE ERA OF OPEN SCIENCE

SPARC Japan セミナー 2017年度第3回

2018.2.21 (水)

深貝 保則 (モデレーター)

横浜国立大学国際社会科学研究院

学術における「オープン化」の波状的展開

OPEN – CLOSED – SECRET のあいだの揺らぎ

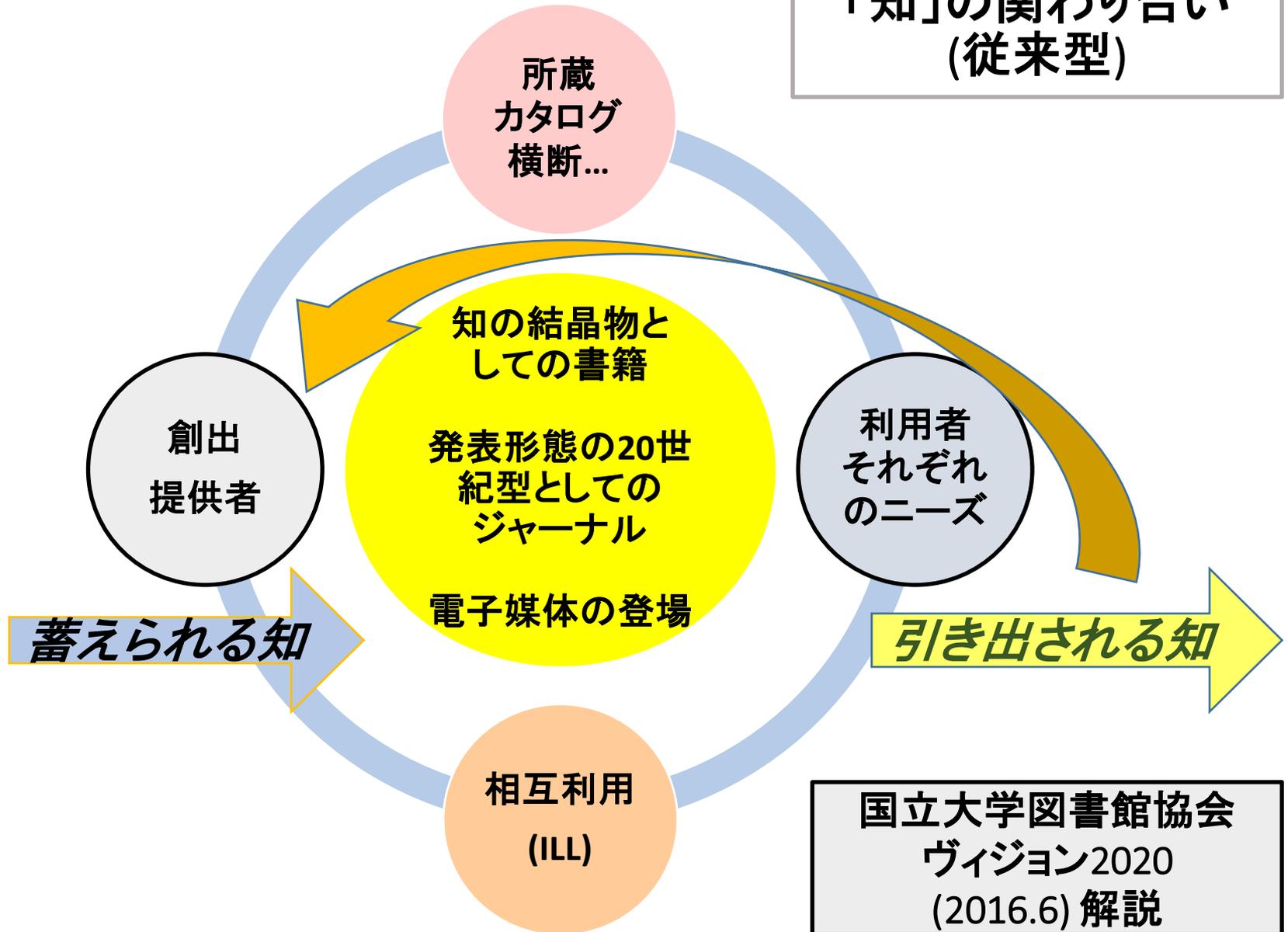
知を編み、知を伝える様式の (長い歴史としての)変容

- 集団内の秘伝的な営み
- 広場で楽しみのように.....
- わずかに産み出される伝達様式(刻印、手書きなど)と口承、筆写
- 印刷され発表され広められる段階の到来
- 公開される知(パトロンによる庇護、公開書簡、著作)
- 知を保護する制度の登場(特許、著作権)
- 学術発表の様式化(著作、学術雑誌、学会発表、など)

ネットワーク環境下における さまざまなオープン化の展開

- 印刷物(雑誌、書籍)の製本版標準形からネットワーク提供の登場へ
- 電子ジャーナルの普及(電子的なコンテンツの購読=しかしなお、一方通行の情報)
- 機関のコンテンツの電子的提供=オープン化、そのためのリポジトリ
- 博士論文のデジタル登録・公開
- ネットワークを介しての新たなコミュニケーション様式(双方向性)の学術への浸透
- 電子的コンテンツへのオープンアクセスという政策課題
- オープンサイエンスの提起
- オープンデータと「知」の可能性

図書館と
「知」の関わり合い
(従来型)



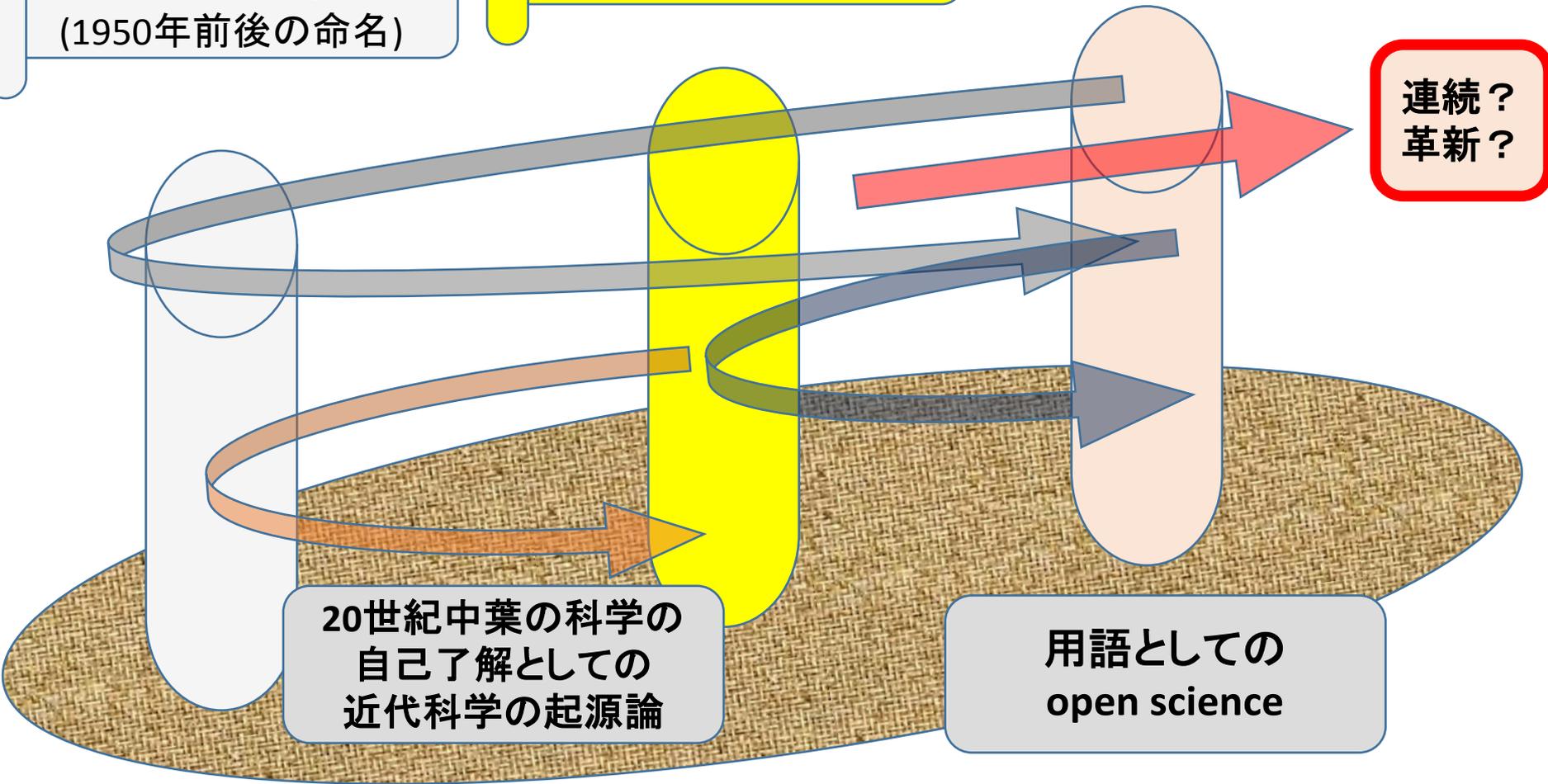
緊張
open - closed - secret

20世紀における
学術の様式の
標準型
(貢献、証拠、評価)

“情報革命”
オープンサイエンス
《連続と変容》

活版印刷の活用
17世紀の
“科学革命”
(1950年前後の命名)

連続？
革新？



20世紀中葉の科学の
自己了解としての
近代科学の起源論

用語としての
open science

18世紀の書籍・雑誌型の Repository

T H E
R E P O S I T O R Y,
O R
G E N E R A L R E V I E W :

CONSISTING CHIEFLY OF A

Select Collection of Literary Compositions,

EXTRACTED

From all the celebrated PERIODICAL PRODUCTIONS
now Publishing :

W I T H
O C C A S I O N A L R E M A R K S.

Fanorum opinis Spoliis Sociorum ditata.



L O N D O N :

Printed for C. CORBETT, in *Fleet-street*, and Sold by all the Book-
fellers, Printers, and News-carriers in *Great-Britain* and *Ireland*.
MDCCLVI.

T H E
M E D I C A L M U S E U M :
O R,
A R E P O S I T O R Y
O F

Cases, Experiments, Researches, and Discoveries;

Collected at HOME and ABROAD:

Whether in

ANATOMY, || BOTANY,
MEDICINE, || CHEMISTRY,
PHARMACY, || SURGERY,
PHYSIOLOGY, &c.

A Deo est omnis Medela.

ECCLUS. xxxviii. 2.

By GENTLEMEN of the Faculty.

V O L. I.

L O N D O N :

Printed by W. RICHARDSON and S. CLARK;

AND SOLD BY

W. BRISTOW, at the West End of St. Paul's Cathedral,

MDCCLXIII.

ネットワーク型
コミュニケーションの
多角的双方向性

飛び交い練られる
(時にさまよう)知

オープンにされる
データ、(アイデア)

開かれる知

創出
提供者

蓄えられる知

所蔵
カタログ
横断...

知の結晶物と
しての書籍

ジャーナルの
機能の重層化

オープン・
アクセス化

引き出される知

利用者
それぞれの
ニーズ

リポジトリ

オープンサイエンスの
提起と大学図書館

図書館と
「知」の関わり合い
(ゆらぎ、過渡期?)

蓄えられる知

「不思議」の感覚から好奇心を抱き、謎めいた自然をひとまず把握し、記録を頼りに思考の手掛かりを求め、そして謎解きから落ち着きある説明へと進む(つもりの)人間

自然界の動物とは異なり、言葉を文字化し、記録する人間

踏まえる
先手を打つ
一番乗り!

依拠・活用
すべき記録
の集積と利用、信頼性

ネットワークを介した
同時的にして
双方向的な
知のコミュニケーション
の可能性

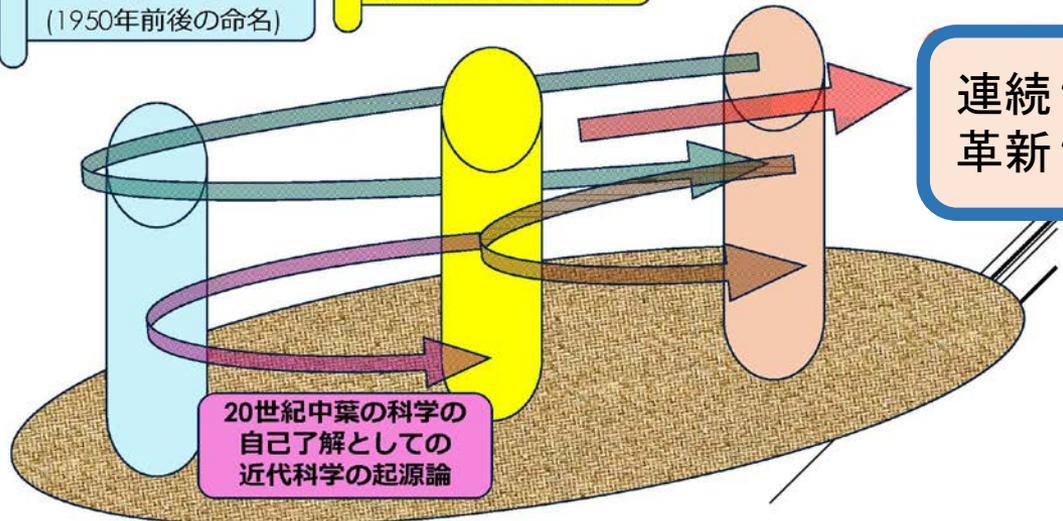
知の発見プロセス
と活用の揺らぎ

判る、判った
はどの段階?

活版印刷の活用
17世紀の
“科学革命”
(1950年前後の命名)

20世紀における
学術の様式の
標準型
(貢献、証拠、評価)

“情報革命”
オープンサイエンス
《連続と変容》



連続?
革新?

人工知能
コミュニティ
が産み出す
知の帰属?

書かれたものを複製、大量配布 それぞれの時点では
いわば一方通行の知の伝達のなかでの知の創出
手書き写本、活版印刷など以降、その最新の形態と
しての電子的配信もなお、特性としては一方通行

オープンサイエンス
段階における知識
をめぐる布置構造